

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107827		
法人名	医療法人 中山医院		
事業所名	グループホーム 四季の里		
所在地	岡山市北区西山内101-2		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した医療機関が母体で、日頃から顔なじみの関係が出来ている。地域との関わりを大切に運営に取り組んでおり、買い物、理美容院の利用、野菜・花作りなどを通して連携と交流促進に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな山間部にある地元の医院が母体のグループホームで地域に密着した運営がされている。グループホームの並びにデイサービス・小規模多機能があり馴染みの生活の継続が営まれている。新たな職員と関連事業所内の職員の異動により馴染みの生活の継続の継承に職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングして職員の立場や経験・習熟度を高め質の向上に取り組んでいる。新たな管理者のもと、上下関係を越え職員が一つのチームになり新しい「四季の里」カラーを出すべく努力されている姿に、感動しまた期待をもちました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人が理念を把握し、それぞれケアに努めている。	日々のケアの中でその都度声かけなどして理念の共有と再確認に努めている。	事業所がめざすサービスの大きな指標である理念を実践に活かしやすいよう具体化して取り組まれてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、理容院の利用、地域の夏祭り、清掃活動秋祭り(四季の里祭り)を通して日常的に地域の一員として交流している。	民家の点在する道路沿いにあるホームで日常的に散歩や外気浴を心掛け出会いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を招いたり、施設行事に招いたりし、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際評価への取り組み状況等について報告、話し合いを行っている。	現在は地域の家族・利用者・職員で開催している。現状報告・課題などをテーマに話し合い、運営推進会議への取り組みに努めている。	昨年10月より包括・住民代表による協議会の設置に取り組みされているようなので運営推進会議への参加協力を働き掛けて行かれる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、市町村に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所代表が市町村との窓口として事業所にかかわる諸問題の相談や情報を伝え関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ユニット会議、カンファレンスをもうけ、身体拘束に関して話し合いをもうけている。	お互いどんな事が身体拘束になるか、「したい事を出来なくする事が拘束になる」など具体的に拘束について話し合い、日々のケアに取り組んでいる。	身体的・精神的に個々の暮らしを支援する観点から鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫を重ねられる事が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会で学び、虐待の防止の徹底に努め、細かいことでも常に注意を払いスタッフ間の報告・連絡・相談に努め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごと職員への説明を行っている。対応者がいる場合は、随時スタッフに説明し、アドバイスをもらいながら利用者に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などに重要事項説明書をもとに家族等の不安・疑問点を伺い、理解・納得を図り説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の状況を伝え、気がかりなこと、気づいたことを聞きだすよう努めている。外泊した際の入居者の様子を聞くなどし、ケアプランや日々の介護に役立てている。	出来る限り入居者・家族の要望(外出・体操など)を聞き日常生活に活かせる様取り組んでいる。	利用者・家族が求めている生活環境を把握し今以上事業所の力を活かした支援に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者等の会議で運営方針・ケアサービスの情報の共有・職員の意見の話し合いをし、全体の質の向上に努めている。	ユニット会議や全体会議で職員からの意見(勤務・業務の見直し等)やケアサービスの提案等について話し合い運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政から来た情報などは、スタッフに情報を回し参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所に来た広告や月刊本を見たり、インターネットで情報を集め、研修の機会を設けている。毎月一回勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人に心身の状態・思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	便りや面会じの声掛けをし要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い・状況等、確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの家族という雰囲気大切に、一人ひとりのスタッフが入居者と過ごさせてもらっている。作業など一緒になるべくしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々のくらしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるため家族と同じような思いで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、理美容院の利用など地域の馴染みの人との関わりを大切にしている。	入居者の中には古くから地域に馴染みの方が多く、日常的に関わりがある暮らしの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日おやつ時間は職員も一緒に会話を持つようにしたり、役割活動を通して利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあれば相談して下さいと本人・家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	入居者の能力に合わせた接遇を心掛け根気よく思いや意向の把握に努めている。またユニット会議で日々のケアの気づきを話し合つて情報の共有にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中からその人の生活歴や暮らし方を汲み取るように努めている。家族の方からも聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を細かく観察し、個人記録に記入、申し送りノートを活用などし、現状の把握が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の勉強会・カンファレンスを行い、利用者情報をより一層理解、援助内容等話し合い、職員のチームケア確認を互いに図り、介護計画に反映し、作成している。	日々のケアから本人に必要なサービスは何かなど気づきを話し合い介護計画に反映させている。	本人、家族を含めより多くの関係者と今以上情報交換し、本人に今必要な介護支援は何かを職員全体で考え介護計画に取り組まれる事を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく個別記録に記入し、常にスタッフが把握し、問題点を話し合うようにつとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院・スーパー等馴染みのある資源を使い、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、医療法人事業主体である為、総合病院との入院・往診連携、歯科・耳鼻科・皮膚科等医療機関関係も確保している。家族・本人通院等も選択は自由。	母体が地元の医療機関で主治医でもあり往診受診も納得のえられた支援が行われている。協力医療機関への受診は家族の協力も得て行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りで報告・相談を行っている。又、特変時にはそのつどすぐに対応してもらえるように日頃からしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院を設けており、常に情報交換や相談に努め、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員に申し送りチェック表・介護日誌・記録を生かし、看護師・スタッフが協力し合って支援に取り組んでいる。また早い段階から本人・家族等と話し合いを行い取り組んでいる。	全職員で方針を共有し、状況・経緯など話し合いながら情報の共有に努め看取った体験を活かし、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年に一回応急手当・蘇生術の勉強会を実施し、体験・体得・習得するようになっている。また、夜勤時の緊急対応についてマニュアルを整備、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的計画を立て、年二回定期的に非常災害想定訓練を実施し、地域の協力も得られている。	地域の方に参加を呼び掛け、地元消防団も参加して火災訓練等災害時の想定訓練を行っている。	夜間を想定した訓練があまり出来ない様なので昼間の訓練同様計画を立て取り組まれる事を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声掛けや対応を心がけている。職員を孫と思っている入居者には孫になりきった対応をするなど。	排泄時の声かけ・入室時のドアノックなど確認しながらプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を促すような対応を心がけ、本人の能力に合った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重する支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。準備や片付けも無理のない範囲で行っている。	入居者の体調や気分を見ながら食事の内容によって調理や片づけも手伝ってもらい、職員も一緒に楽しんで食べられるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握、個別に高カロリー補食品を摂取する方もいるがこれだけに頼らず、嗜好品や食べやすいもの等で工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに口腔ケアを促し、介助が必要な方は手伝わしてもらい、清潔保持に努めている。夜間は毎晩入れ歯洗浄剤使用で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけ、個々の排泄リズムを把握し、改善に取り組んでいる。声掛けや誘導により、自立に向けた支援を行うように取り組んでいる。	タイミングをみて無理のない排泄誘導に努め自立を大切にしたい支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物乳製品を毎日摂取して頂き、水分補給もこまめにしてもらいなど、個々に合わせて工夫に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否する入居者には声掛けを工夫し、無理強いしない支援を心がけている。	習慣・状況などに合わせ、出来るだけ希望に添った入浴支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整、転落防止など、安眠出来る環境を作り、本人の希望を尊重した支援をするよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	リーダーが日々確認し、変更があった時などは、申し送りノートを活用し、誤薬等ないように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望により服等の買い物をしたり、近くの理美容院へ家族や職員に行くなど、日常的に外出できるように取り組んでいる。	日々の暮らしの中で入居者の様子を見ながら天候に合わせた外出・散歩また、洗濯物を干すなどの生活に添った外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は預かっているが、本人でお金を持っている方もいます。希望に応じて一緒に買い物に行き、本人に預かっているお金から支払ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は、一緒に郵便局へ行くこともある。電話希望時には時間帯にもよるが、支援出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ全体で工夫・配慮に取り組んでいる。季節の花や飾り物、など。	窓際にソファとテレビがあり壁には風景画が掛けられ落ち着いた雰囲気づくりがされており、季節に合わせた飾り付けや花がさりげなく飾られ生活感のある共用空間作りがなされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで談話して頂いたり、中庭へ椅子を出して談話してもらえるようにしている。一人で座りたい方用のソファも用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を持って来て頂くように家族やご本人にもお願いし、安全に居心地良く生活して頂けるようにしている。	個別活動の作品(ぬりえ・手芸品など)を飾るなどして個々に合わせた居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境担当を一名配置、かつ部屋担当制による日常生活点検、及び月一回会議による収集をはかり、個々に対応した生活づくりに努めている。		